

よりよい「英語1」の授業を求めて(4) —学習意欲がリスニング能力に及ぼす影響—

For Better Classes in “English 1” (4) — The Influence of the Student Motivation on Listening Comprehension —

(2003年3月31日受理)

藤田 浩
Hiroshi Fujita

Key words : 学習意欲, リスニング能力, 上位群・下位群

抄 録

1. 英検3級レベルのリスニング能力を持つ学生は、履修前は半数強だが、履修後には7割強に増加している。
2. リスニング能力に対する学生の自己評価は概して低いが、リスニングテストの高得点者ほど高くなっている。
3. 授業に対する学生の取り組みには積極性が伺えるが、必ずしもリスニングテストの得点と比例していない。

1 「多様化」への対処

筆者は、1995年より現在まで、中国短期大学において、第1学年の学生を対象に教養科目「英語1」を担当している。そして、筆者の授業を受講する学生が様々な点で多様化していると感じている。中学や高校での英語学習の質及び量も様々である。授業開講直前の英語能力も様々である。そして、授業態度及び学習意欲も様々である。しかしながら、筆者は、全ての学生にある程度の英語学力及び授業に積極的に参加する姿勢を獲得してもらいたいと思っている。

1.1 「英語1」の授業の目的と方法

筆者は昨年度(2002年4月～2003年3月)前期に、総合生活学科(1クラス・54人)と経営情報学科(1クラス・28人)、そして後期に、幼児教育学科(1クラス・40人)の学生を対象に、それぞれ週2時限(計180分)「英語1」の授業を行った。

筆者は、「英語1」の授業の目標を二つ設定している。一つは、「日常の生活で使われることが多い英語表現に慣れ親しみ、自分の意思・意見を英語で表現することを

可能にすること」¹⁾である。もう一つは、「英語と日本語の違い(例:発音のしかた、文法、文化的背景など)を正確に認識し、正しい英語表現を習得すること」²⁾である。したがって、学生のリスニング能力を向上させることは、この授業において重要な地位の一つを占めている。

筆者の授業では、日本人が海外旅行に行くとき、または海外で生活するときに遭遇する可能性が高い状況を題材にした、対話形式の教材(教科書)³⁾を使用している。そして授業中の活動には、リスニング活動も含まれている。筆者の授業でのリスニング活動は、主に以下の通りである。まず、教科書に設定されたある場面⁴⁾に関して、第1回目の聴き取りを行わせる。その目的は、対話全体の概要を把握させることである。続いて、第1回目の聴き取りのときと同じ場面に関して、第2回目の聴き取りを行わせる。その目的は、対話の部分的かつ詳細な内容を把握させることである。筆者は学生に対して、概要把握が第2回目の聴き取りにまでずれ込んでもかまわない旨の指示を出してはいるが、いかなる場合においても第3回目以降の聴き取りは行わないことにしている。その理由の一つは、学生に「チャンスは2回しかない」という緊張感を与えるためである。

1. 2 リスニング能力の調査

筆者は、「英語1」開講期間中に、3回の調査を行っている。第1回目の調査は第2回目の授業で実施し、授業開始直前時の学生のリスニング能力を測定することを目的としている⁵⁾。第2回目の調査は「中間テスト」⁶⁾中に実施し、前半(授業開始時から「中間テスト」直前まで)の授業が学生のリスニング能力にどのような影響を及ぼしているのかを測定することを目的としている。第3回目の調査は期末試験中に実施し、後半(「中間テスト」直後から期末試験直前まで)の授業が学生のリスニング能力にどのような影響を及ぼしているのかを測定することを目的としている。

第1回目の調査においては、実用英語技能検定試験(英検)4・3・準2級の対話文問題を各10題ずつ使用している⁷⁾。2000年度⁸⁾及び2001年度⁹⁾に行った同一の調査では、以下のことが明らかになっている。英検4級に合格するレベルのリスニング能力を持っている学生は全体の8割に達している。一方、英検準2級に合格するレベルのリスニング能力を持っている学生は全体の1割にも満たない。そして、英検3級に合格するレベルのリスニング能力を持っている学生は全体の半数強である。したがって、筆者は、『全ての学生に英検3級レベルのリスニング能力を習得させる』ことを、「英語1」の具体的な授業目標の一つとして設定している。

第2・3回目の調査においては、第1回目の調査で使用したのと同じ英検3級の対話文問題を使用している。2001年度に行った同一の調査では、以下のことが明らかになっている。第2回目の調査の段階で、全体の7割強の学生が英検3級に合格するレベルのリスニング能力を持っている。また、第1回目の調査の段階では英検3級合格レベルに到達していなかった学生に関しては、その半数程度が第2回目の調査では英検3級合格レベルに到達している。しかしながら、第3回目の調査結果は、どのレベルの学生に対しても第2回目の調査とほぼ同じ結果にとどまり、顕著な進歩は見られていない。

1. 3 学習意欲の調査

筆者は、「英語1」開講期間中に、3回の授業アンケートを実施している。いずれのアンケートも、学生が自己評価をするという形式である。第1回目の調査は第1回

目の授業(授業開始直前)に実施し、中学・高校時代に英語の授業にどのように取り組んでいたのかを調査している。第2回目の調査は、「中間テスト」直後に実施し、前半の授業にどのように取り組んだのかを調査している。第3回目の調査は期末試験直前に調査し、後半の授業にどのように取り組んだのかを調査している。授業アンケートは、7つの選択肢から最も適切なものを一つ選ぶ形式の質問が大部分を占めている。

2 調査結果及び考察

2. 1 調査方法

リスニング能力に関しては、前述の方法に基づいて3回の調査を行い、学生が英検3級レベルのリスニング能力を獲得することができたかどうかを調査した。

学習意欲に関しては、各回につき2個ずつ、計6個の項目を調査の対象にした。以下は調査の対象にした質問及び選択肢である。なお、評価1が最も肯定的な答え、評価4が肯定でも否定でもない答え、評価7が最も否定的な答えになっている。

第1回

あなたは英語を聴く(リスニング)活動が好きなのか嫌いなのかを教えてください。

- 評価1 とても好き
- 評価2 好き
- 評価3 どちらかといえば好き
- 評価4 好きとも嫌いともいえない
- 評価5 どちらかといえば嫌い
- 評価6 嫌い
- 評価7 とても嫌い

あなたがリスニング活動に関してどのような印象を持っているのかを教えてください。

- 評価1 非常に得意
- 評価2 得意
- 評価3 どちらかといえば得意
- 評価4 得意とも不得意ともいえない
- 評価5 どちらかといえば不得意
- 評価6 不得意

評価7 非常に不得意

第2・3回

あなたは授業中にどのくらいビデオやリスニング教材を活用しましたか。

- 評価1 非常に活用した
- 評価2 活用した
- 評価3 どちらかといえば活用した
- 評価4 活用したとも活用しなかったともいえない
- 評価5 どちらかといえば活用しなかった
- 評価6 活用しなかった
- 評価7 全く活用しなかった

ビデオやリスニング教材を使うことにより、英語学習に何かよい変化が見られましたか。

- 評価1 非常に見られた
- 評価2 見られた
- 評価3 どちらかといえば見られた
- 評価4 見られたとも見られなかったともいえない
- 評価5 どちらかといえば見られなかった
- 評価6 見られなかった
- 評価7 全く見られなかった

2.2 リスニングテストの結果及び考察

表1は、2000年度、2001年度及び2002年度第1回リス

ニングテストの英検3級レベルの問題の得点分布を示している。配点は、正解1問につき1点としている。

2000年度の平均は5.8点、標準偏差は2.15である。また、124人¹⁰⁾中68人(54.8%)の学生が6点¹¹⁾以上得点している。2001年度の平均は5.7点、標準偏差は2.13である。また、131人¹⁰⁾中76人(58.0%)の学生が6点以上得点している。2002年度の平均は5.8点、標準偏差は2.19である。また、108人¹⁰⁾中59人(54.6%)の学生が6点以上得点している。

この3年間に関しては、得点分布に関しても、平均点・標準偏差に関しても、大きな違いはない。したがって、2002年度においても過去2年間と同様に、第1回テストで6点以上得点した学生を『上位群』、6点未満の得点にとどまった学生を『下位群』と分類して、分析の対象とする。

表2は、2002年度第2・3回リスニングテストの得点分布を、上位群・下位群に分けて示している。

第2回テストにおいては、全体の平均は6.9点、標準偏差は2.21、108人中79人(73.1%)が6点以上得点している。上位群の平均は8.1点、標準偏差は1.36、59人中57人(96.6%)が6点以上得点している。下位群の平均は5.4点、標準偏差は2.16、49人中22人(44.9%)が6点以上得点している。

2001年度第2回テストにおいては、全体の平均は6.9点、標準偏差は2.01、131人中97人(74.0%)が6点以上

表1 第1回リスニングテスト得点分布

年度	得点										
	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
2000	4	8	19	18	19	17	18	14	6	0	1
2001	4	10	14	18	30	14	20	11	8	2	0
2002	2	12	15	17	13	13	19	10	6	1	0

(単位：人)

表2 第2・3回リスニングテスト得点分布

		得点										
		10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
第2回	上位群	11	13	15	13	5	2	0	0	0	0	0
	下位群	1	3	8	3	7	8	9	6	4	0	0
第3回	上位群	13	12	20	6	5	3	0	0	0	0	0
	下位群	1	1	4	11	8	7	9	4	3	1	0

(単位：人)

得点していた。上位群の平均は7.7点、標準偏差は1.59、76人中67人(88.2%)が6点以上得点していた。

下位群の平均は5.8点、標準偏差は2.01、55人中30人(54.5%)が6点以上得点していた。

第3回テストにおいては、全体の平均は7.0点、標準偏差は2.18、108人中81人(75.0%)が6点以上得点している。上位群の平均は8.2点、標準偏差は1.40、59人中56人(94.9%)が6点以上得点している。下位群の平

均とは5.4点、標準偏差は1.98、49人中25人(51.0%)が6点以上得点している。

2001年度第3回テストにおいては、全体の平均は7.1点、標準偏差は2.13、131人中96人(73.3%)が6点以上得点していた。上位群の平均は8.0点、標準偏差は1.56、76人中70人(92.1%)が6点以上得点していた。下位群の平均は5.8点、標準偏差は2.18、55人中26人(47.3%)が6点以上得点していた。

表3 リスニングテスト得点群別成績推移

得点群		得点									
		10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
10	第1回	2									
	第2回	1		1							
	第3回	1	1								
9	第1回		12								
	第2回	5	4	2	1						
	第3回	5	3	4							
8	第1回			15							
	第2回	3	5	2	4	1					
	第3回	5	3	5	2						
7	第1回				17						
	第2回	2	2	5	4	3	1				
	第3回	2	5	7	1	1	1				
6	第1回					13					
	第2回		2	5	4	1	1				
	第3回			4	3	4	2				
5	第1回						13				
	第2回	1		3	2	3	4				
	第3回	1	1	3	2	2	1	2	1		
4	第1回							19			
	第2回			3	1	2	3	6	2	2	
	第3回				3	3	5	5	2	1	
3	第1回								10		
	第2回		1	2		1	1	1	2	2	
	第3回				3	2	1	2		1	1
2	第1回									6	
	第2回		1			1		2	2		
	第3回				3	2			1	1	
1	第1回										1
	第2回		1								
	第3回			1							

(単位：人)

上記の結果から判断すると、2002年度においても2001年度と同様に、第2回テストの段階で、学生のリスニング能力には顕著な伸びが見られる。しかしながら、これも2001年度と同様に、第3回テストは第2回テストと比較すると、顕著な伸びは見られていない。

表3は、第1回テストにおける得点を基準にして、第2回及び第3回の得点がどのように推移したかを示している。また、表4は、第1回テスト下位群の得点推移をさらに詳しく示している。

第1回テストで上位群に分類された学生の大部分は、第2回及び第3回テストにおいても、英検3級のレベルを保持している。2001年度は第2回テストで9人(11.8%)、第3回テストで6人(7.9%)が6点未満の得点にとどまったが、2002年度に6点未満の得点にとどまった学生は、第2回テストで2人(3.4%)、第3回テストで3人(5.1%)と減少している¹²⁾。また、5点群においても、第2回・第3回テストで両方とも6点未満の得点にとどまった学生は13人中2人だけで、進歩が見られる。

しかしながら、4・3点群においては、第2・3回テストで両方とも6点未満の得点にとどまった学生がそれぞれ10人(52.6%)、5人(50.0%)を占めている。なお、2点群の一部及び1点群の第2・3回テストの成績はかなり高いものになっているが、これが普遍的な傾向であるという断定はできない。

表4 リスニングテスト下位群成績推移

第1回得点		第3回得点	
		6点以上	6点未満
5	6点以上	7	2
	6点未満	2	2
4	6点以上	3	3
	6点未満	3	10
3	6点以上	4	0
	6点未満	1	5
2	6点以上	2	0
	6点未満	2	2
1	6点以上	1	0
	6点未満	0	0

(単位：人)

2.3 学習意欲調査の結果及び考察

表5は、第1回授業アンケートで質問した二つの項目(リスニング活動の好き・嫌い及び得意・不得意)について調査したデータを、第1回リスニングテストの上位群・下位群別に分けて示している。なお、第1回リスニングテストに参加した108名中、第1回授業アンケートには97人(上位群54人、下位群43人)が参加している。

リスニング活動の好き・嫌いに関しては、上位群・下位群とも『リスニングは嫌い』という印象を持っている学生が多い。しかしながら、上位群においては、『リスニングが好き』という学生も2割程度、また『好きとも嫌いともいえない』という学生も3割程度いる。それに対して、下位群においては、『リスニングが好き』という学生は1割もいない。そして、『リスニングは嫌い』という学生が7割を占めている。この部分に大きな差が認められる。

リスニング活動の得意・不得意に関しては、上位群・下位群ともに、好き・嫌いに関してよりもさらに否定的な印象を持っている。しかしながら、上位群においては、『リスニングは不得意』という学生が7割弱であるのに対し、下位群においては9割弱に達している。この部分に大きな差が認められる。

表6は、第2・3回授業アンケートで質問した二つの項目(リスニング機会の活用頻度及びリスニング能力の変化に対する自己評価)について調査したデータを、第1回リスニングテストの上位群・下位群別に分けて示している。なお、第2・3回授業アンケートには62人(上位群29人、下位群33人)が参加している。

リスニング機会の活用頻度に関しては、第2・3回ともに、また、上位群・下位群ともに肯定的な評価が目立つ。しかしながら、下位群に関しては、第2・3回の結果に大きな違いが認められないのに対して、上位群では、第2回に『非常に活用した』という答えが約4分の1を占めていたのに対して、第3回ではその値がほぼ半減し、その代わりに『活用したともしなかったともいえない』という答えが倍増している。

リスニング能力の変化に関しても、第2回・第3回ともに、また、上位群・下位群ともに肯定的な評価が目立つ。しかしながら、いずれの回においても、下位群の評価の方が上位群のそれに比べて高くなっているようであ

る。

表7は、第1回リスニングテストで下位群に分類された学生33人を対象に、第2・3回授業アンケートで質問した二つの項目について調査したデータを、第2・3回リスニングテストで6点以上得点したか否かに基づき分類して示している。また、表8は、3回のリスニングテストでいずれも6点未満の得点にとどまった学生11人を対象に、第2・3回授業アンケートで質問した二つの項

目について調査したデータを示している。

活用頻度に関しても変化に関しても肯定的な評価が目立つが、リスニングテストの得点が伸びたか伸びなかったかによって評価が変わるとはいえないようである。むしろ、いずれの回においても、6点未満の得点にとどまった学生、すなわちリスニングテストの得点の伸びが少ない学生の方がより高い自己評価を行っていることが、これらの結果からもわかる。

表5 リスニング活動の好き・嫌い及び得意・不得意に関する自己評価

		評価1	評価2	評価3	評価4	評価5	評価6	評価7
好き・嫌い	上位群	0	1	9	17	13	12	2
	下位群	0	0	2	11	12	13	5
得意・不得意	上位群	0	0	3	15	14	16	6
	下位群	0	0	0	5	11	17	10

(単位：人)

表6 リスニング機会の活用頻度及びリスニング能力の変化に関する自己評価

		評価1	評価2	評価3	評価4	評価5	評価6	評価7	
活用	第2回	上位群	7	9	8	3	0	2	0
		下位群	2	11	8	8	3	1	0
	第3回	上位群	4	9	8	6	1	0	1
		下位群	4	10	9	9	0	1	0
変化	第2回	上位群	2	5	8	13	0	1	0
		下位群	3	17	8	2	3	0	0
	第3回	上位群	3	7	9	9	1	0	0
		下位群	2	10	13	7	0	0	1

(単位：人)

表7 第1回下位群におけるリスニング機会の活用頻度及びリスニング能力の変化に関する自己評価

		評価1	評価2	評価3	評価4	評価5	評価6	評価7	
活用	第2回	6点以上	1	3	5	5	2	0	0
		6点未満	1	8	3	3	1	1	0
	第3回	6点以上	1	3	5	8	0	1	0
		6点未満	3	7	4	1	0	0	0
変化	第2回	6点以上	3	8	4	0	1	0	0
		6点未満	0	9	4	2	2	0	0
	第3回	6点以上	2	2	9	4	0	0	1
		6点未満	0	8	4	3	0	0	0

(単位：人)

表8 3回のテストがいずれも6点未満の学生におけるリスニング機会の活用頻度及びリスニング能力の変化に関する自己評価

		評価1	評価2	評価3	評価4	評価5	評価6	評価7
活用	第2回	0	6	3	1	1	0	0
	第3回	1	5	4	1	0	0	0
変化	第2回	0	6	3	1	1	0	0
	第3回	0	4	4	3	0	0	0

(単位：人)

3 よりよい「英語1」の授業に求められるもの

今回の調査の結果からは、様々なことが示唆される。その一つは、授業開始時には英検3級レベルのリスニング能力を持っていなかった学生の約半数がその能力を獲得していることである。しかしながら、そのことは同時に、残りの約半数、すなわち全体の約4分の1の学生は依然としてその能力を獲得することができていないということである。また、授業開始時に英検3級レベルのリスニング能力をすでに持っていた学生に関しては、授業後半時において、前半時よりも学習意欲が低下する傾向が一部で見られている。

この傾向を解消するためには、能力に応じたリスニングの機会を増やすことが必要であると思われる。しかしながら、それには様々な問題点がある。一つは、それを授業中に行うことが難しいということである。筆者のこれまでの経験では、新たなリスニング活動の時間を授業時間内で捻出することは不可能である。そのためには、授業カリキュラム全体の見直し（例：授業で取り扱う項目を現行の10項目から2項目ほど減らす）を行う必要があると思われる。また、能力に応じたリスニング教材を筆者が配布するという方法もあるが、学生は授業時間以外に英語学習をすることはほとんどないようである。また、たとえ教材をカセットテープにダビングしても、それを再生する機械を学生が持っていないという問題もある。

また、第1回アンケートで調査した項目（リスニングに対する好き・嫌い及び得意・不得意）に関しては、学生の評価はかなり正確であるように思われる。しかしながら、第2・3回アンケートでの学生の自己評価は、学

生のリスニング能力を反映したものにはなっていない印象を受ける。つまり、下位群の自己評価は上位群の自己評価と比較して、甘いものになっている印象を受ける。アンケートの方法を再考する必要があるかもしれない。

さらに、今回の調査においては、リスニングテストの有効回答数に対して、アンケートの有効回答数が少ない。そのため、データの有効な処理ができていないと言いき難い。確実なデータ収集を行う方法を確立する必要がある。

このように、これから解決していかなければならない問題は山積している。もちろん今回の研究では取り上げることのできなかつた問題もある。それらを一つずつ解決していき、「よりよい『英語1』の授業」に近づけていきたい。

注

- 1), 2) これらのことは、学生に配布されるシラバスにも明記されている。
- 3) 筆者が「英語1」の授業で使用している教科書は、Viva! San Francisco (著者：大八木廣人, Timothy Kiggell, 発行所：マクミランランゲージハウス) である。なお、この教科書には準拠ビデオがあり、筆者はリスニング活動の際には必ずこのビデオを使用している。
- 4) 筆者使用の教科書は全部で20章から構成されているが、筆者は以下の10項目を使用している。
「町の中心部に行く交通手段をたずねる」、「ホテルにチェックインする」、「道をたずねる」、「レンタカーを借りる」、「料理を注文する」、「服を買う」、「自己紹介をする」、「銀行口座を開く」、「荷物を送る」、「薬を買う」

- 5) 教科書を使った授業を行うのは、第3回目以降である。
- 6) 筆者は「英語1」の授業の中間点、すなわち第15回目前後の授業で、私的に「中間テスト」を実施している。その目的は、学生に授業前半の学習成果を知ってもらうことと、授業後半の学習意欲を高めてもらうことである。
- 7) 質問形式は、4・3・準2級とも、最初の5題が対話を聴き、その最後の文に対する応答として最も適切なものを4つの選択肢の中から選ぶ形式になっている。そして、残りの5題が対話を聴き、その後に放送される質問の答えとして最も適切なものを4つの選択肢の中から選ぶ形式になっている。準2級の最初の5題のみ放送は一度だけで、その他は二度放送される。また、4・3級の問題は平成10年準会場問題を、準2級の問題は平成10年第1回問題を使用している。
- 8) 藤田 浩『よりよい「英語1」の授業を求めて(2)ーリスニングテスト及び授業アンケートの結果が示唆するもの』中国短期大学紀要第32号 2001年
なお、本論文中の「2000年度」のデータは、上記の論文に基づいている。
- 9) 藤田 浩『よりよい「英語1」の授業を求めて(3)ーリスニング能力の向上を求めて』中国学園紀要第1号 2002年
なお、本論文中の「2001年度」のデータは、上記の論文に基づいている。
- 10) これら3回の調査においては、3回のリスニングテストを全て受けた学生のデータのみを使っている。
- 11) 日本英語検定協会『英検ガイド2000』によれば、4・3・準2級とも、合格の最低基準となる得点は60%である。
- 12) 上位群に1人だけ、第2・3回テストの両方で6点未満の得点にとどまった学生がいた。